

宮城いきいき便り

「みんなが働ける場」求めて 農家レストランをオープン

「おにぎり茶屋ちかちゃん」代表 佐々木千賀子さん(60)

ことし春、仙台市若林区蒲町に農家レストラン「おにぎり茶屋ちかちゃん」を開いた。運営母体は、同区荒井神屋敷の8戸の農家で構成する農事組合法人「仙台イーストカントリー」(佐々木均代表理事)。同法人の加工部門とレストランの代表を務める千賀子さんは「農家がつけて握るおにぎりが売り。安心して食べに来てほしい」と語る。

看板メニューの「おにぎりプレート」には、自社の水田で収穫したひとめぼれなどのおにぎり2個が載る。こぶしより大きめのサイズと握りたての味は評判で、ボリューム満点だが、みんなきれいに平らげていくという。「直売コーナーも設

被災農家の雇用に一役

仙台イーストカントリーは、2008年に神屋敷の農家が合同で

設立した法人だ。米や転作大豆の栽培に加え、飼料用の稲からも販売する。加工部門は「神屋敷仕込みみそクラブ」が前身。千賀子さんたち農家の主婦たちは、約30年前から味噌を製造・販売してきた。「私たちの働きぶりに触発され、私たちも近年は味噌作りだけでなく、おにぎりや総菜を作り、催事やスーパードで販売しています」

若林区の加工場で、地元の農家の主婦らと一緒に「おにぎりや総菜を作る佐々木千賀子さん」



「もう(再建は)無理だろうと思います。でも、無事だった味噌蔵をクラブの女性たちときれいにするうち、くじけそうな気持ちも持ち直しました。みんなで一緒に働くって大事だな。働く場所をなくしたくないと思っただけです」

「被災農家の雇用に一役」

経営は順調。後継者も現れ、順風満帆と思われた矢先に起きたのが東日本大震災だった。津波で水田約70畝の4分の3が浸水し、農機具は全て壊れ、8戸の農家も被災した。

「被災農家の雇用に一役」

「被災農家の雇用に一役」

「被災農家の雇用に一役」

「おにぎりプレート」は大きなおにぎり2個と旬の野菜たっぷりの自家製味噌の豚汁、総菜がセットで500円。米粉でルーを作る「米粉カレー」も人気



若林区蒲町の農家レストラン

おにぎり茶屋 ちかちゃん

仙台市若林区蒲町31-15
営/10:00~16:00
(商品がなくなり次第終了)
休/日曜。祝日は臨時休あり
TEL022-353-9571

総合相談センターからのお知らせ 高齢者のための専門相談

内容=高齢者やそのご家族の方からの法律(相続・債務など)・医療(認知症・うつなど)の悩み事などの専門相談をお受けします。
相談は無料、面談相談で予約制です。
(遠方の場合は電話での相談もできます)

- 法律相談=毎月第1~3金曜日
午後1時30分~3時30分(弁護士)
- 医療(認知症・うつなど)相談=毎月第4木曜日
午後1時30分~3時30分(精神科医)
- 介護・健康などの相談=月曜~金曜日
午前9時~午後5時(保健師、相談員)

申し込み、お問い合わせ
宮城県社会福祉協議会 総合相談センター
TEL022-223-1165

国や自治体の補助も得るなどし、夢だった農家レストランを開業した。レストランは今、法人のアンテナショップとなり、仮設住宅に住む被災農家の雇用も生んでいる。「30年来の仲間や家族、多くの人たちの支えがあつてできたこと。お客さまと直接対面すること、作る喜びも強い。そんな千賀子さんの元気のもと旅行。夫の均さんに年1回、国内外へ連れて行つてもらい、骨休めするとい